report.md 10/28/2020

Assignment 7

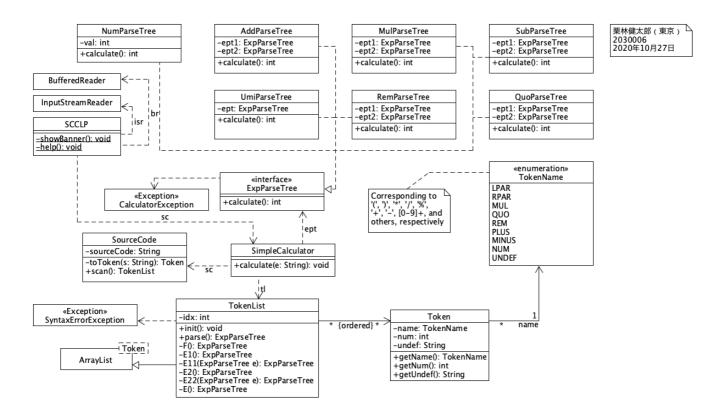
• 氏名: 栗林健太郎

• 学生番号: 2030006

• 作成日: 2020年10月28日

Simple Calculator

クラス図



以下、プログラムの流れに沿って、クラス図に記載されたクラスについて説明する。

SCCLP

本アプリケーションSimple Calculatorのエンドポイントを提供するクラス。標準入力から1行ずつ読み込んだ文字列が:

- helpという文字列だったらhelp()メソッドを実行し使い方を表示する
- quitという文字列だったらループを抜けプログラムを終了する
- その他だったら、SimpleCalculatorクラスのインスタンスが持つcalculateメソッドにより処理する

SimpleCalculator

入力された文字列を解析し処理する入口となるクラス。処理のために以下3つのオブジェクトに依存する。

- sc: 入力された文字列からSourceCodeクラスのインスタンスを生成し保持する
- tl:sc.scan()によって解析されたトークンのリストを表すTokenListクラスのインスタンスを保持する
- ept:tl.parse()によってパースされた構文木を保持する

report.md 10/28/2020

SourceCode

入力された文字列を解析し、計算式を表すトークンのリストとしてTokenListクラスのインスタンスを返すクラス。

scan()メソッドにより、入力された文字列を1文字ずつスキャンし、文字に対応するTokenNameからTokenクラスのインスタンスを生成し、TokenListクラスのインスタンスに追加していく。

TokenList, SyntaxErrorException, Token, TokenName

計算式を表すトークンのリストを表し、そのリストをパースして構文木を返す。計算式として不正がある場合、シンタックスエラーを表すSyntaxErrorException例外を投げる。

TokenListクラスはArrayListクラスを継承しており、その要素はトークンを表すTokenクラスのインスタンスからなる。また、そのリストは順序付きのリストである。

Tokenクラスは、計算式を構成する文字それぞれに対応しており、その名前を表すname属性はTokenNameクラスと対応している。

TokenListクラスのインスタンスは、parse()メソッドによりトークンをひとつずつ見ていく。トークンの種類に応じて対応する演算を表す構文木を表すExpParseTreeインタフェイスを実装したクラスを生成し、再帰的に構文木を作っていく。

ExpParseTree, NumParseTree, AddParseTree, MulParseTree, SubParseTree, QuoParseTree, RemParseTree, UmiParseTree

ExpParseTreeは、構文木を表すクラスの基底となるインタフェイスであり、**calculate()**メソッドの実装を要求する。

即値

ExpParseTreeを実装するNumParseTreeは、即値を表すクラスである。計算結果は、インスタンスが保持する数そのものになる。

二項演算子

ExpParseTreeを実装する AddParseTree, MulParseTree, SubParseTree, QuoParseTree, RemParseTreeは、二項演算子を表すクラスである。それぞれ、加算、乗算、減算、除算、剰余をの計算を表す。

ept1およびept2属性に保持する構文木を再帰的に計算し、それぞれのクラスに対応する計算を実行する。

単項演算子

ExpParseTreeを実装するUmiParseTreeは、単項演算子を表すクラスである。

ept属性の計算結果に対して、負の単項演算を行う。

実行結果

本アプリケーションSimple Calculatorを、以下の通り実行した。本課題において追加を要したMulParseTree, SubParseTree, RemParseTree, UmiParseTreeに関する計算式を実行している。

report.md 10/28/2020